

(第36回 相馬総合高等学校野球部監督 磯前 翔斗)

「論語と算盤^{そろばん}」

(渋沢 栄一 著 角川ソフィア文庫)

この度、書籍リレーを受けまして、私をご紹介したい本は「論語と算盤」です。この本を書いた渋沢栄一は令和6年から1万円札の肖像となっている人物であり、世の中の認知が一気に高まったと思います。渋沢氏は日本実業界の父と呼ばれ、約470社の会社を設立し、500以上の慈善事業にも関わった人物です。

まさに、日本の資本主義制度を作り上げたと言える渋沢氏がこの本で述べているテーマは「論語(=道徳)と算盤(=商業)は合一すべきである」というものです。商業や資本主義というものは経済を成り立たせ、社会を豊かにするために欠かすことのできないものがあります。しかし、その一方で、自分が儲けたいという欲望がエンジンとなって前に進んでいく面もあります。そこで、渋沢氏は論語(中国の思想家である孔子の教えをその弟子たちがまとめた言行録)の考え方を商業に取り入れ、その欲望が暴走しないように歯止めをかけるべきであると警鐘を鳴らし、商業人として、そして人としてどうあるべきかについて語った1冊となっています。

今日は情報化社会となり、様々な情報を簡単に手に入れることができるようになりました。SNSやメディアを見ると効率化、生産性向上という言葉で溢れており、己の利益を追求するという考えが多いような気がしています。野球に置き換えれば、勝利という利益のために手段を選ばず突き進むという部分が多かれ少なかれあるようにも思えます。もちろん、勝利を目指すことは人やチームが成長するために必要なものです。しかし、偏りすぎるのも問題だと思っています。特に生徒は野球が上手になりたい、甲子園に行きたいという気持ちで日々の練習に取り組んでいるため、偏りやすいのではないのでしょうか。そのため、指導者は野球と道徳を合一させ、生徒を導く必要があるのだと思います。

論語は私自身影響を受けた本の1つですが、その論語を商業に取り入れるという考え方や、論語に対する渋沢氏の解釈が述べられているのが「論語と算盤」という本書になります。商業は利益を追求する、野球は勝利を追求するという点で共通する部分があるため、指導者の方々にも参考になる内容があると感じています。もし興味がありましたら、ぜひ読んでいただければと思います。最後に、今回書籍リレーのお話をくださった皆川先生、このような機会をいただきありがとうございました。